

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	交通安全対策業務				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)	
部等名	危機管理部	課等名	防災交通課		包含する細々目	1	2	1	11	10	1		
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり												
施策	42 交通安全の推進												
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	関連計画 条例等								
		事業期間		年度～		年度							

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値					
	市民	飯田市の人口(人) (H18.10.1推計人口)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする		
			107844	107000				
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度				
意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	交通安全意識が高まる	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)					
		交通安全講習への参加者数(指導員1人3回×24人=72回、1回の受講者30人×72回=2160人) (指導員1人4回×24人=96回、1回の受講者)	18目標	最終目標	19目標	2160	↑	
			18実績	2160	23目標	2880	23実績	最終目標達成年度
			18目標	最終目標	19目標		↑	最終目標達成年度
			18実績		23目標		23実績	最終目標達成年度

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	交通安全意識の高揚を図り市民の安全で快適な生活の実現に寄与するため、市長が任命した交通指導員(24名)により歩行者の指導や交通安全思想を普及、交通安全の推進を図る。	交通事故のない、安全で安心・快適な交通社会を確立するため、 ・通学(園)時間帯を中心に街頭指導活動の実施 ・各地区の園児、小・中学生に対する交通安全教室の実施 ・各種祭り・イベント等における交通整理の実施 ・各交通安全運動中の交通指導所の実施	街頭指導・回数 交通安全教室・回数 交通整理・回数 交通指導所・回数	48回 3回 8回 14回
	18年度の実績	交通事故のない、安全で安心・快適な交通社会を確立するため、 ・通学(園)時間帯を中心に街頭指導活動の実施 ・各地区の園児、小・中学生に対する交通安全教室の実施 ・各種祭り・イベント等における交通整理の実施 ・各交通安全運動中の交通指導所の実施	街頭指導・回数 交通安全教室・回数 交通整理・回数 交通指導所・回数	48回 3回 8回 14回

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他	0	0
一般財源	4,297	3,812	
事業費計(A)	4,297	3,812	
人件費	正規職員所要時間	18年度 300	19年度 300
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	1,073	1,073
	トータルコストA+B	5,370	4,885

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	交通安全思想の普及啓発活動により交通事故防止となっている。	交通事故死傷者数	現状値	814	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	700
	交通事故発生件数		現状値	641	19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標	550	

この事業を開始したきっかけ 昭和46年に交通安全思想の普及啓発のため、交通指導員が設置された。	事業を取り巻く状況の変化 交通事故は減少傾向にあるが、年間の死傷者数は、800人前後と依然高水準といえる。交通指導員に対し市が実施するイベント等の交通整理の依頼が多くなっている。	事業に対する市民や議会の意見 交通指導員の熱心な取り組みは、地域・市民の信頼を得ている。
--	--	---

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？ (評価) 結びつく (その理由) 街頭指導や交通安全教室等での交通指導員による啓発活動により交通安全思想の普及がされている。	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？ (評価) 余地がある (その理由) 交通事故そのものがなかなか減少していない。
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？ (評価) 必要性がない (その理由) 道路を使用をする人を対象としており妥当。		廃止・休止した場合の影響はありますか？ (評価) 影響あり (その理由) 交通安全教育は継続的に行うことが重要
	意図の見直しの必要性はありますか？ (評価) 必要性がない (その理由) 交通安全思想の普及により交通事故防止につながる。		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む) (評価) 類似事業なし (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか) (評価) 必要ある (その理由) 交通安全思想の普及は市民生活の安全のためであり市が関与することが妥当。		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む) (評価) 不可能 (その理由) 交通指導員は月額8,500円の報酬で活動していただいている。
		効率性 評価	成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？ (評価) 不可能 (その理由) 交通指導員は月額8,500円の報酬で活動していただいている。
		公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？ (評価) 妥当である (受益者とその理由) 受益者は市民で妥当

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 実施年度 <input type="text"/> 具体化	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由	
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？			

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	